

JR東労組レールクラブ 24系と三陸鉄道で行く「三陸福幸号」の旅に参加!



JR東労組サークル協議会のレールクラブが、6月18日～19日にかけて「24系と三陸鉄道で行く『三陸福幸号』の旅」を開催しました。JR貨物労組青年部は、関東や関西から総勢10名の青年部員が集まり、JR東労組の仲間と共に交流しました。

レールクラブの吉川実行委員長から「この団体列車を走らせるために色々な苦闘があった。前回、12系客車を貸し切って行っ

た企画では400名を超える参加があり成功した。今回は24系を貸し切り、200名を超える仲間が参加している。この組織力をこれからの運動に繋げよう！」とあいさつがありました。

さらに、たしろかおる参議院議員から、国会情勢や安倍政権の動向、国民が安心して暮らせる社会の実現について力強い決意を頂きました。参加者全体で、たしろ議員を応援していくことを確認しました。

今回の旅は、上野駅を17時頃に発車し、八戸駅に翌朝7時頃に到着。その後、東日本大震災で大きな被害が出た「三陸鉄道・北リアス線」の久慈駅から宮古駅まで乗車し、3年経った今でも復興が進んでいない状況を目の当たりにしました。



宮古駅に到着し、三陸鉄道の望月社長から「見て頂いた通り、沿線には家が無い。防潮堤ができてから家が建つことになる。地域と地域を結ぶためには鉄道が必要。安全で安心した鉄道が必要であり、これからも地域と共に歩いていく。」とあいさつを頂きました。本来の鉄道の在り方や使命を十分に発揮していくために、

会社の経営陣と労働者が一体となって努力している熱意が伝わりました。まさに、このことがJR貨物にも求められていると感じました。

最後に、三陸福幸号を運行させるために、企画されてきた実行委員会の方々や、三陸鉄道の方々、そして参加した仲間の皆さん、本当にお疲れさまでした。同じJR総連の仲間として今後も、共にたたかい、交流していきましょう!!

